



書名無言抄  
二

冊數	書名無言抄	函號	部類
二		二 一 三 六	字書

中村俊定文庫  
文庫 18  
20  
1

應五七一



吾言抄巻上



おそり海老のふるまひをいふに  
おしゆのやまを海濱の真砂をいふに  
一足よりたよりあつみらた物いひ  
あまの山根の葉をいふに  
思へる世の事ありき  
乃うへうの事ありき  
心水がたよりいふに  
えんがたよりいふに  
いさあつめいさあつめいさあつめ

あつた六種乃ち新編ありとせむ  
そしはあつた人海あり

- |    |        |    |       |
|----|--------|----|-------|
| 一  | 或目盪筋   | 二  | 心呂傾科  |
| 三  | 四季科    | 四  | 北季科   |
| 五  | 神祇     | 六  | 釋教    |
| 七  | 困懐     | 八  | 毒傷    |
| 九  | 山類     | 十  | 水邊    |
| 十一 | 体用之物   | 十二 | 可隔三句也 |
| 十三 | 可隔五句也  | 十四 | 可隔七句也 |
| 十五 | 一之而る難也 | 十六 | 輪廻の事  |
| 十七 | 婦科の事   | 十八 | 可里惟事  |
| 十九 | 教句切字の事 | 二十 | 句教の事  |

- 女一 女之取様の事
- 女二 執事之事
- 女三 一應法務之事
- 女四 會席作法の事
- 女五 和漢篇

嵐

冬



一式目監觴



夫連歌根源ハ仁王十二代景行天皇廿十年  
ヤマトの神代  
 日本武尊東夷征伐の時甲斐國酒折の宮に  
オホノ  
 去々新治筑波の祠より杉ととり標本式目元來  
 ハ建治二年より鎌倉幕府よりとり為相郡の本所  
 云々其後新式目ハ大納言為藤郷の作也然と  
 後普光園抄改云應安五年より改め被書か  
 新式目進加と号し又新式今案とハ後常  
 恩寺園白殿下請乃好古の規矩と基て宗初法  
 師と相談ありけし時の宗道より出たりけりといふあり

其德元年小書我々心教宗祇未逝去乃後  
每座及淨輪事也又ぬ徳之文電二年の尚ほ拍  
危人 勅をけりありありといふい書改じ

景行天皇

百十年より天正九年まで千

後宇多院御宇

建治二年より應安の年

後圓融院御宇

應安の年より享徳元年

後範園院御宇

享徳元年より文徳二

後柏原院御宇

文徳二年より天正九年

正親町院御宇

天正九年より記之

今上皇帝

享徳二年正月法書

建治二年より天正九年まで三百六十年





いけのしん(10)

神祇ありあり遠のり梅や生類二

年中は夷敵と地りくつりりあふゆいけ

いさひゆいけと命何も甚日回ん

一ら乃実雨のうらり力あふり日本を神

い見さす 神祇あり神らりふと所ふらり

家とりのい 神教あり居下りあふと

出の目 朝時分りあふと我れも打越ふ

いさひゆいけと命何も甚日回ん

いさひゆいけと命何も甚日回ん

いさひゆいけと命何も甚日回ん

いさひゆいけと命何も甚日回ん

いさひゆいけと命何も甚日回ん

いさひゆいけと命何も甚日回ん

いさひゆいけと命何も甚日回ん

いさひゆいけと命何も甚日回ん

いさひゆいけと命何も甚日回ん

いさひゆいけと命何も甚日回ん



石 だく一又りまゝに平しなきてとて

岩橋 山 山形あり

石清 あ 八幡を返すたき

牛回 と 森とほきて又りり

池 只一名前よ一と形或同よ

池 と 云ふよ廣海と付る

泉 小 ありとよ字ほま

いさり い ありとよ

稲 一を一採一け外よ

衣裳乃色 衣 衣乃色

色 中 ありと乃色

家凡 小 あり

二句 二 句あり

い魚 い 魚

巻 二 新式

を代 を 代

いかり 二色をい

板間 居たり二句 燻まり居たりのこととす

入違 又入り字相の字とも入り二句 燻りの

市 一名市入り一六乃 類地か

いせ 記る赤

いり坊 人倫ありいと 精乃字入り 燻をき

とふ 記る

生死 ぬ志申けい くらとも 二色をき

いの 類余おくりい

命 一身 歎おの 類乃い けり 燻をき 又

い 燻 だく 一古 郷を 又 燻り 小

偽 入り 燻 二句 燻り 二句 燻り 二句

いま 二色 付の 色 燻り

い 燻 二色 燻り 一 燻り 燻り

い 燻 二色 燻り 二 燻り 燻り

い 燻 二色 燻り 二 燻り 燻り

い 燻 二色 燻り 二 燻り 燻り

い 燻 二色 燻り 二 燻り 燻り

い 燻 二色 燻り 二 燻り 燻り

いせいせん 上のめりー 小のめり

いせき 二何乃字二句きりふせー

いく 小何乃字付句を無世ー 打ち

赤日 二句きりふせー 二句きりふせー 二句きりふせー

一文字 二句きりふせー 二句きりふせー 二句きりふせー

いふも 二句きりふせー 二句きりふせー 二句きりふせー

ておろし 二句きりふせー 二句きりふせー 二句きりふせー

若百乃字おやハ百動一ニおろしおろし

おろし 二句きりふせー 二句きりふせー 二句きりふせー

おろし 二句きりふせー 二句きりふせー 二句きりふせー

おろし 二句きりふせー 二句きりふせー 二句きりふせー

おろし 二句きりふせー 二句きりふせー 二句きりふせー

おろし 二句きりふせー 二句きりふせー 二句きりふせー

おろし 二句きりふせー 二句きりふせー 二句きりふせー

おろし 二句きりふせー 二句きりふせー 二句きりふせー

おろし 二句きりふせー 二句きりふせー 二句きりふせー

おろし 二句きりふせー 二句きりふせー 二句きりふせー

字たる物ハ何と雖ヤ但物小ヨリてと  
何と記さるはいふ事してその季ふるなる  
花乃ありて梅嬌ありて乃花如  
の類同ありといふ事も有り  
梅さきとよみたるものなり  
よありあり正花なりゆ人よ  
あはれとていふ事ありてさ  
内一ハさりあり

**花**

一付る風霞乃類と新式遠梅  
花より其の不及其は  
を花より其の不及其は  
を花より其の不及其は

**花乃霜**

月乃霜何と居るなり花を  
かとい居るなり花を

**花乃散**

小梅梅かよのちり  
らるめさきうら  
まののま

**花乃青**

神乃青かや地り  
をいふ神の青人  
ときらふ

**花乃白**

人倫や但可依  
せでいふ少  
花とあり

**花乃紅**

月と友甲く  
人倫よあり  
花乃紅

花とあり  
人倫よあり  
花乃紅





橋本

白備人備りりい

え山

よ山乃え折と種魚さふさいり山  
乃えり折えさきりあひり

原

野二句種魚一松原およ野不種  
あひり乃京林乃京およ上野と種とさる

京

小野京おとやりとて有平し種神  
もろふ一とあり折物ふけりこれ又

野

野りつとあるらさきり無用と心死さるわ  
るさ小いひ種とともむる去とさり不種

乃

乃ふる種てハ五句さりあり  
波乃も折物乃さぬ乃いさ

濱

濱いさ一  
は似たりともさり又濱よあり

小

小家ともいさあり句小よねし種も居  
二句種あり種句乃さるさりさるさる可

種

種も一後者之定家郷乃さるり種とさる

南乃海のさ満いさ一とよ果はさいりあ  
所ふありと式抄物ゆりい種あり

種

種居ふや式抄物よ北居ふとけり不種  
才あり

種

種居ふ一二句種魚一

種

種とよとん小とり折井よおとよ  
同字の事しも付句とさる一り

種

種あさひの事し小百類り二つりあり  
るさ折物折物さるはさ小准五平

種

種けりあひりさことえさるは一後小  
二折り有平し

種

種とよ折物魚香おとよさるは二折  
乃と折物さるさるさるさるさるあり

種

種折物一とありさるは二折代  
折物一とありさるは二折代

謀まう とうけいしるふし二句さくらあや

まうり ころれあははげまじりあやとさうふ

ぼや とうしとふまうりやき一向不睡

え とよてふとふまうりあははめいといふ

え とハ二句睡ありうまうりいふは乃てま

に

贅えい せれま二句さくらあり依り非祇ありあ

庭火 非祇あり冬あり庭うり地りて赤

庭 と砌よのる折と睡あり折と入てま

庭 只一寺皇居ホ乃るり一庭のとくハ各

庭乃河さ山 山れま二句さくらあや

小をなひこ 居ホり二句睡十あ

鶏 東馬目くれ乃とり地節まや異名ハ

二との舎りたうりけあやしきあえ

捨乃こもえ



小不乃海

あうこれ西名ありく名不集り  
述にの名不り入ゆらよ式よ名

白ひ

小音面ときらふ述  
りひのふり一載く

小坊とぬ

りる面り橋煙十しにれと  
いりひのどちよ入

似物乃類

冬折と煙あも昔てをう金て  
あう金したとんい書昔と煙と

うあり

りる面り橋煙十しにれと  
いりひのどちよ入

海

りお葉付へうきも一赤もあうちい  
うをかめてい金ん花もくら煙やく

とぬふおし三ヶふふものせりり乃えんよ  
ひんれくきらぬやき記あありり

小あり

こまいにくとらむのまは一向ふ  
世よふとつせ

白小あり

小たまとら洞回あふ煙やく  
のいおとふやくけううい

小てあり

二句あやふてあり乃とよとく  
字乃ゆとんとくわい類あり

か

月や海く心

煙あり七月廿日信別尺さ心  
りりふつらりやあり

星ととるふ

帝王乃え正乃懐萬年星  
とぬ一たうのりや下巻り

神く

月日とよま三句煙や日次乃日  
月以乃月小ハ二句あり

月車

煙あり月乃字一ハめり  
らよ金一

郭ふ 一がとくしめあかしくし一ふ  
と二のましく時馬をてまてれたおこ

時馬 小いあし福も師長お連ありゆりや  
り涼一さると付まりくうい

管 只一帯あり 冬あり 春ふ  
あ辺よりを

ふそい とつりい 名条りめくを清ふあが  
そはむとい魚ん白海名ふあり

ふとり 小神へ山魚おの道乃字二白  
まうあり

ふ乃月して 二つりあり地確く  
おのが乃と只洞百款う

魚

年と魚て かゆり只洞よ多ふてか  
只洞一向ふわをまう

道乃魚 ちの魚りありむと二白  
ふる

中

冬乃的 兼かありあしそゆ乃字ふむ  
さふ冬あり

年 二つ場と一とありむと一とあり  
ひて八年二乃らやととあり

年 二由ろ ちとつりよまふはまてふと付ろ  
事同まありけまう

年 年書て とあり書て記同あ毎度け  
勢一ありゆりゆり

乃事一 下巻 入りく





ち

子早振

子乃字よめりりり可種子乃字振の字とあり二句つりさるふ

をささる

りる

千乃字

千乃字一つ也後を異説懸り受仰統約の字乃不家志

あつし

指南者也

らとり

らとり子乃字おとさるらとり

子種

子種り名草付くくもたらくさり名草とくれくも

子置

子置とつり居るりめり

路

路と路ある七句去とふ事不習只あつし

路と通

路と通よめりもめり去也巡り舟

よめりぬみり二句さるあり又漢語中かとお行歩ありぬ路よまりぬの二句さるあり

路

路よ地まつぬ地一向不種之他路乃心よ用たりん句あり付ゆん事用種有七

らま

らまよらまあり二句さる

教

教とよ字ありてハ五句さるあり甲

茅乃編

茅乃編るて茅京漢茅生か者へ

茶

茶一らり乃世かとりいてまらめり

契

とみ白りた乃ひるおとみ神お創  
事おわも依白神付のやたよ一は  
らこりて現る事乃人りる赤とよよた乃  
めつてまゝるくおとよ白りた乃めまは  
かくゆいゆもりいおといくれる赤とよよ  
ゆふのよまらしく心おとよとよりまら  
とよていけるけまもかろくくはまら  
まらまらけりまらるおり心おのゆら  
あまらとありたよまら白と乃て成  
まのかり

い

まら乃あ

雄や抱文のまおかと  
りまらりいふまらり  
たの時流水輪也 新 膳 人とおあり

ぬ

ぬ

人備りあまらるくと  
まらんまらり  
ぬ 伏 二句種おりまらるかとおあり  
ぬ 可とありいまらとあまらるまら

ぬ

まらとよ種おあり  
ぬ 可とありいまらとあまらるまら  
ぬ 可とありいまらとあまらるまら

ぬ

ぬ 可とありいまらとあまらるまら  
ぬ 可とありいまらとあまらるまら  
ぬ 可とありいまらとあまらるまら

ぬ

ぬ 可とありいまらとあまらるまら  
ぬ 可とありいまらとあまらるまら  
ぬ 可とありいまらとあまらるまら

あつとふ洞小の進けるハ二句つり煙也  
ぬ乃ぬととらんぬと乃男付句と  
とらんぬあ男と抄めひ乃とれいきふや  
万幸一會んりうゆきもく乃に記のさ  
くいとぬふ分何まう三幸あり  
ぬ乃ぬとぬのぬ乃りひさあわい付  
まらんぬととらんぬ乃るわいさ  
ぬ乃ん二あり一ありありあり何と百級  
乃之れ皆てときらあり

歌

おの海かよの歌と所なく二句  
不煙くらりる乃うれと煙所きさちり  
いんねあれもあるをうき是と煙あり  
そ乃由んハくいとらるともさらく小あり  
歌りりきらふよの煙をあり  
こやらちかよ魚乃何とて小とよの一れ  
乃とありあり  
あつからんをんねん何とねん  
ゆへり日面と煙とよんねあり一向不煙  
歌りりるわさくらんとありまてあり代  
准

を





をたまに

跡乃字をまゝと云ふなり  
少くも此の字にたまにと云ふ  
形は枝も右にたまにあり此は  
句神なり

遠近

と云ふはさして一なりと云  
たり又此の字を有しと云  
り二も有しと云ふは遠乃字の  
字とも一なり二句ならん

をあり

西條よりあり

わ

我若

と云いても人偏の字と平人の字  
全き詞ありと云ふは乃用  
他句より

和田乃原

舟

葉

海より舟を種あり田乃字  
も此の字に舟ありと云ふ  
は名も少くも舟あり  
た一と乃外は葉つむふと云  
るあり

田

葉

二句種なしと云ふは  
あといくも二句ならん  
善通小の書道者といふなり

ふーよあううハ是なり又清補抄小の道若  
うりうりなり修持人和田格おんお連  
と忍びなり格ハ蓋事なり毛詩又其  
志孝とあり

五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言

五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言

五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言

五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言

五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言

五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言

五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言

五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言 五言

か

祢 祢 祢 祢 祢 祢 祢 祢 祢 祢

祢 祢 祢 祢 祢 祢 祢 祢 祢 祢

祢 祢 祢 祢 祢 祢 祢 祢 祢 祢

祢 祢 祢 祢 祢 祢 祢 祢 祢 祢

神 神 神 神 神 神 神 神 神 神

と 二 二 二 二 二 二 二 二 二

二 二 二 二 二 二 二 二 二 二



ゆりのり  
杜若 たくく乃とくけ西行

枯野 白滝冬をかり多しひかたひて  
好かりゆくの上流乃西下をたひ

季乃肉り入ゆきとも一少ふまふハ西へ入  
うい野 魚を打り入打り回 同おま

回と向 ともてりりかしもあふ  
とまふりハまを金

楓 ともてりり回りやりと  
さくらあを

りぬ ともまふりあさふと替てと極と  
只一冬かり雉子付てさふ折りあ

福 順猪とて國乃流札とまふりあふ  
ともまふりハ和漢ともまの民器使ともあふ

りるるの使かとりあふと心かりけあふ  
とさふりあふと替てさふ折りあふ

鷺うり 一小たのり一あふあふりあふと  
三あり

鷺うり と極りあふる折と極

かり場 ぶとりま紫雉乃田行くらまふ不  
可純群もお連せりは鳥あり

猿乃り衣 かり場乃り小不極り花も  
あふりあふりあふりあふりあふりあふり

りるるのり衣りあふりあふりあふりあふり  
とさふりあふりあふりあふりあふりあふり

鷹 去一雉一ふと二あり 羽存ハ去雉乃甲  
りるるのりあふりあふりあふりあふりあふり

りるるのりあふりあふりあふりあふりあふり  
りるるのりあふりあふりあふりあふりあふり

まや

馬二馬一記くとれとり孫よくかとありて  
いひてとまいりあるい

馬の故室 りとり所不りのと統とも  
ある二馬一りるつきとも

り子 とまいりひきとともともいひ  
つれと二白赤らふ魚一

かうとり 一馬やつふよ馬同一とも也日  
山とよありけ意とり物といり

たしと未交とりり定家つととれとあるさ  
と未交とりり定家つととれとあるさ

心えてとくしいといハ能とうていふか  
との能用とやこの能用とよといふこ

かの馬 櫻といふ字りの種といふ説いつい  
はてはいこいらふといふいるいるい

卯 まいり又馬乃子とりりの類いひとく  
二りり車かり子といふ字面と極や

りさと記乃と 生類あり鶴和名小い  
かけ書ありたく一七夕

りさと記乃と 生類あり鶴和名小い  
かけ書ありたく一七夕

牧を火 生類あり勿論衆かり

鐘 只一入造一釋教一異名り一釋教異名

不分明り自然の各別者不及何也  
たいと新式之類や各別たりといふとも

ア一不分明り自然の各別者不及何也  
たいと新式之類や各別たりといふとも

入造り 也生類但白許りりり  
つきといふいるい

冠

衣類よりあつと

暖

といけとり眉乃新のあけつけへ  
らとくこむの類人備らへつと

野乃雪

冬よりあつと踏ゆりあつと

霞

いあがの煙かり甲右さらんきせ  
より今ハ煙りささまりゆり

とと足乃音

なみりあつととよせり

新と陸

はる二句わり日け人けハ新也  
山けハ陸也ささるけけ

新ありうこりさりけハ陸あり水けハ新也

陸ありしり陸新京

あつととあつと

陸

りりとあつとハ陸也二句煙と  
よも山本の新類や天ヶ下又

りあつとの新不煙か建ははるり  
建ふとさらふとあつと

新

う岩根垣縁のと煙つと陸ハ根乃  
字さふとあつとあり

風

小野かこりかといいてもわ白煙あり  
松乃けさ萩乃とと二句煙也

う音

風新もあつとり可煙也

綿

長や衣類よりあつと  
かり下巻よるりく煙也

あつと人

白さらふとあつと  
あつと字二

あつと

あ 一に片付て せうけい 一くもかひい

方 一いふいふてくるなりてかともみかひの  
字あり勿海五白燻之

かひい 一いふいふてくるなりてかともみかひの  
字あり勿海五白燻之

片敷 とあま 器根衣ふ何きとく  
自といひても来たり

かひい 一いふいふてくるなりてかともみかひの  
字あり勿海五白燻之

かひい 一いふいふてくるなりてかともみかひの  
字あり勿海五白燻之

かひい 一いふいふてくるなりてかともみかひの  
字あり勿海五白燻之

かひい 一いふいふてくるなりてかともみかひの  
字あり勿海五白燻之

かひい 一いふいふてくるなりてかともみかひの  
字あり勿海五白燻之

かひい 一いふいふてくるなりてかともみかひの  
字あり勿海五白燻之

かひい 一いふいふてくるなりてかともみかひの  
字あり勿海五白燻之

かひい 一いふいふてくるなりてかともみかひの  
字あり勿海五白燻之

かひい 一いふいふてくるなりてかともみかひの  
字あり勿海五白燻之

かひい 一いふいふてくるなりてかともみかひの  
字あり勿海五白燻之

かひい 一いふいふてくるなりてかともみかひの  
字あり勿海五白燻之

もきい

もきい

もきい

もきい

もきい

もきい

もきい

もきい

もきい

もきい

もきい

もきい

もきい

もきい

もきい

りたる とよとて一ありこれ外より

か海 おとよとて五句ありをるや

うし 一は外縁をいふ一あり發句乃と先

まのに傳ありとよ誤あり一向部邊は

一切不可を混雜さして不入るをさしと

或れ字 發句乃外小あり

難 他二句可極皆々と極一さよ治せり

うか 一あり二ありつりさふも月

あ 先つ句あり

い いかにあり

あ あしり

ま まやに

あ あしり

り り

か か

とよとて一あり

おとよとて五句あり

一は外縁をいふ

まのに傳あり

一切不可を混雜

發句乃外小あり

他二句可極皆々と極

一あり二あり

先つ句あり

いかにあり

あしり

まやに

あしり

り

か

とよとて一あり

おとよとて五句あり

一は外縁をいふ

まのに傳あり

一切不可を混雜

發句乃外小あり

他二句可極皆々と極

一あり二あり

先つ句あり

いかにあり

あしり

まやに

あしり

り

か



よ

代 二と云ハ祿代一君の代一たの代ハ外は  
所代をくり引ハ代と云ふも大君乃

所代あり

代は母

め句去やめくをめく代をくけ  
代ありよりあふさるるにけをや

世男

よ甲と云字二句嬬一

を

り移くのくも人のあやまぬや  
治平世一うをとりあも同さるる述

懐乃を一佛乃世一をり一と五なり  
て世ハ花盛かとりあも平世あり  
浮世道世を連懐乃をあり  
前乃世後の世ふと  
ゆめありいづれもねを嬬や  
憲乃をハけのゆめあり  
一ありや一あり金でせあり

母字門

又選よこありよまや人とあり世と  
持人ハ紙乃字入てハ世と持人ハ書や

選乃やと

人物居ハあゆハ嬬中

選生

居前り二句嬬やりよ赤とあり  
を居前り二句と云ふ

ゆめ

後身生かよの生乃字折と嬬や百  
類り二つりこれありつさり

喚子鳥

たぐ一鳥や歌ハの秘録を  
去乃鳥とつり心えつさすあり

書乃乃りのあり置おとりのハ  
山りよこありハ路り

衆と約月

時分りありも衆ハあり

一祝乃のる

二月乃結るるありあり  
とあり嬬ハありけ世と云三

なめ酒けりくさめあり又心めてもおしり  
しきも夕又入日おやけりかよのまや  
う乃より万端りか別ありつき事あり  
東乃ぬく向 ときあす時かよめり

夜半 百韻よ二 宵 時かよりあつと東  
乃字よりさらああり

りやも ときよとこ常一恒乃事也  
東乃字の心よりあつと

横中 東かありひひくつりをよ  
よめりし月乃ゆくをあつと

りし程 花つらあり花より野  
はくろりあつと

首節 小船はれもさりみしと能く連  
飲りしとつきさつといさといさり

吾野乃國栖 ときを人備あり

淀の川舟 小橋ありそ乃外の川舟  
ひよあつとよありと親

よらひ 一より表二白不端能白折又  
不端之玉乃とつと付てと不端

よと 一意り又一めゆ中し能雅之

能而目 一りみか二白きうふあり  
とあやまは見乃字不端之

去よまや ひとつあり二白きうふ  
又らあとりあつと折句

た

竹乃宮 非祇あり能白よよめり  
あつりよめりあつと





田鶴

田乃字同あつけてもく鶴うらま

た乃じの馬

田乃字うり七句燻馬

鷹

よ猪付のあり池守ま点馬所ん乃

立田

り立乃字二句燻あり田乃字

鈴田

名取り二句さあどいん

新田

よ弘葉いんり

野山

釋教うりあま弘法六脚いあ

言根峯山獄

いつれもこ乃る抄と

言根

よ岩の垣ねおとめ句燻也言根

言砂乃尾上

よ藤ハ毛つり付と

言砂の松

山勢あり名取りりり山松

言谷

よ戸抄を燻居取ハ二句さあ

言

よ一多前り一燻津津と一龍乃

とてさるるを抄燻



たく火乃事

くさくさくひとつゝ  
ともありひりかひ乃事

ふれなくひあり何もきくひの類ハ此類分  
くひ乃類もして同あや灯の類ハ皆兼あや

民のく月也

居取りありあつても民入りし  
より人備あり

殺

りよ二句燭也一神りよ二句  
神りよ二句

寺

附と只字入り二句燭夕時分  
あも二句燭朝時分小を不燭

た

りゆふふきりさきり  
付句ハきりも燭也あり

う

かといふ詞意入りあり  
進もあつてふ考ありつゝ意

堪小絶

りけけてもく類  
うもき皆例

ち

りき記あり二句きりふ也一  
まじも同あり

た

小道と分迷ふかよあり  
神付句入りとさきり代唯之

為

たよりかよ二句燭也依句神記  
もきいさあま也地もひまたよりハ志んらう

まろくありこわく心ハ燭りよ不燭也  
大さきもよりありみ後あり不詮む

あかりり下よりみ也  
あかりり下よりみ也

た

かといふ詞あり二句きりあり  
くも類同あり

た

かといふ詞二りあり  
かといふ詞二りあり

う

わら鳩かよありハきりより  
わら鳩かよありハきりより





油ぬゆ

よるまゝ二句あり海心え  
あくはくありてハ不燼也

そて乃雨神の露

ともは露物あり大  
方海乃心あり

そく露物まてりい 侍をたん 白ありて

乃心あり侍をさういそあり 馬さうい

白燐ありぬり乃所り 委入あり

神乃音 二乃類ま 意あり焼音あせ

そく白あまあり 露物ま二句燐色

う 一字小こ類うか乃類二句さうい

そく ありて乃類ありそりいの雨あま入

そく ありて乃類ありそりいの雨あま入

そく ありて乃類ありそりいの雨あま入

そく ありて乃類ありそりいの雨あま入

そく ありて乃類ありそりいの雨あま入

のそむら

よ野山をとしりあやりあす

後身物

よ折紙まゝあめ松竹葉あふ

乃音あり地ひのさありあまあり松竹の煙

ふ乃類まれそりあふの雨さういあり

つ

月よこ乃神

名非あり月よこは森

取りあり

月 面り一はくハあり他名結乃うり

月乃さういありま人乃まともや新式よこ

春月た一有明一三日月一さういあり

乃分少てハ志わまけ糸建治之式月也下論

春夏冬乃月一は、有のハ様一いつれ成  
 とも三季ハ有る一と二あり三日月を四  
 季のうらよた一あり統て春一季乃ら  
 ありとも月と有のと三日月と三も有  
 一交冬同あといつれのうらありとも  
 三あり者ハ月ハ様をり子八も有者  
 一有の乃あり面子月あり他の季子月有  
 てマク五白之白乃ら子様乃季不可統  
**月** 子日次乃日下ら一を燭春乃日あり  
 日くりり日下ら一を燭乃日言り日下と  
 づるありの類日次の日あり又日新日乃ら  
 日夕日ありの類もかん乃天象ありゆら  
 月ハ三白 **月次乃月** 二も何ハ夜あり  
**月** 子きさく記生不燭長月并月  
 乃燭五月毎八月といふ字ありとも

もきさく記

**月乃雷霜** 由あり燭之として天象  
 入て北陸物月乃ありさくさくをい  
 て本乃ゆき霜不混合ゆらあり又月お  
 月を雷り見ありたり神あり冬ありとも  
 かりありあり一もた月おとつりハ  
 天象ありわあり是とあま子燭といあり  
**月と見て** ありとも又月子見乃字  
 ひといてハいりかといふ不謂  
**月乃秋乾の春** といいてハ春か子あり  
 いとも然いりといり地も東かたりつき  
**今日乃月** 一をま川月入を子清月日子  
 ひとふ月三日月乃出乃夕月

東ホミカ梨分りありき

月乃宿 居宿ありと書てあり好士よ乃

他露のふとよ月乃宿可依他意云々

月とあはれ 人倫あり

月乃友人 人倫ありありきと云も月とある

人倫 玉乃免るや事云々あり

月紙 佐准之

月新 と云て二も中しといふ事不謂

月乃下 塩り而を可塩然て水造

月草 月乃字よめ句嬌や新と云けり

月 月草ありといひてハ武乃天象也

鶴林鶴峯 鶴之山新と

山新 鶴之山新と

甲 甲比さらふといなりと云々上右乃不極

後 後を用てあるやしと云々あり

月 月乃字よめ句嬌や新と云けり

月 月乃字よめ句嬌や新と云けり

常 常燈

燈 燈

津國乃あふふ

山城のときあ  
あといふ類名

取うサニと燻ありぬけあり祠とてあふ  
こととも乃名前又者十し地維之

難波津乃つりりあふ  
津り不燻あり地同しく記

あふら  
おや乃けりりあふ  
二ちりといふあといふあ

釣  
船延きふ不燻之他釣舟あとり  
海古人の浦り出て日々とより種あ

とめく燻中しあをつりりあふ付向も  
むらねししうらうらあといふり

つるん舟  
此船を外此船舟あふ入つか  
さ舟楫とてあふてあふ

河をて  
あといふ河をてあといふ  
事ありや地維之

あふあふて  
あともあふあり燻又てあ  
と加海あふりあといふ

河ふら  
親し河ふらあといふ  
又者やし地可依向作者

業  
とありおとさくらあふ

了月ま  
あといふあといふ  
あといふあといふ

使  
此人備馬大あといふ  
あといふあといふ

石  
あといふあといふ  
あといふあといふ

用付乃差のあり



さう神 さう神 とも神成や長神と 財波 財波 財波

波乃花 波乃花 波乃花 波乃花

波乃雪 波乃雪 波乃雪 波乃雪

波乃花 波乃花 波乃花 波乃花

波乃雪 波乃雪 波乃雪 波乃雪

波乃花 波乃花 波乃花 波乃花

波乃雪 波乃雪 波乃雪 波乃雪

波乃花 波乃花 波乃花 波乃花

波乃雪 波乃雪 波乃雪 波乃雪

波乃花 波乃花 波乃花 波乃花

波乃雪 波乃雪 波乃雪 波乃雪

波乃花 波乃花 波乃花 波乃花

波乃雪 波乃雪 波乃雪 波乃雪

波乃花 波乃花 波乃花 波乃花

波乃雪 波乃雪 波乃雪 波乃雪

書と云又中神由縁有之

波乃花 波乃花 波乃花

波乃雪 波乃雪 波乃雪

波乃花 波乃花 波乃花

波乃雪 波乃雪 波乃雪

波乃花 波乃花 波乃花

波乃雪 波乃雪 波乃雪

波乃花 波乃花 波乃花

波乃雪 波乃雪 波乃雪

波乃花 波乃花 波乃花

波乃雪 波乃雪 波乃雪

波乃花 波乃花 波乃花

波乃雪 波乃雪 波乃雪

波乃花 波乃花 波乃花

波乃雪 波乃雪 波乃雪

尚代しやうだい 其のり 榎のり 榎のり 榎のり 榎のり

榎子えんこ 其のり 榎のり 榎のり 榎のり 榎のり

のりのり 其のり 榎のり 榎のり 榎のり 榎のり

海乃海うみのうみ 其のり 榎のり 榎のり 榎のり 榎のり

のりのり 其のり 榎のり 榎のり 榎のり 榎のり

洞乃海ほらうみ 其のり 榎のり 榎のり 榎のり 榎のり

海うみ 其のり 榎のり 榎のり 榎のり 榎のり

洞ほら 其のり 榎のり 榎のり 榎のり 榎のり

のりのり 其のり 榎のり 榎のり 榎のり 榎のり

海うみ 其のり 榎のり 榎のり 榎のり 榎のり

鳥とり 其のり 榎のり 榎のり 榎のり 榎のり

鳥乃とり 其のり 榎のり 榎のり 榎のり 榎のり

待乃まち 其のり 榎のり 榎のり 榎のり 榎のり

のりのり 其のり 榎のり 榎のり 榎のり 榎のり

のりのり 其のり 榎のり 榎のり 榎のり 榎のり

尚代しやうだい

榎子えんこ

のりのり

海乃海うみのうみ

のりのり

洞乃海ほらうみ

海うみ

洞ほら

のりのり

海うみ

鳥とり

鳥乃とり

待乃まち

のりのり

のりのり







らん 小おらんらんけ 類不婚一字二  
他付句と婚つこいふやいあり  
らん かんあーの洞三二  
所子 蘭ありうぬのあり

じ

室乃戸 いろう 惟居取寺小坊りと婚といは  
室乃ハ鴻 山 類ありあしあ邊よ  
じろのるや 名 取りのり

梅 只一 梅一冬来一馬梅一  
新式乃洞あり梅とあまてある  
梅 不 室と新式りあつハ梅乃ぬハ  
急ぬ 一村乃字一ニ句三あり  
村 居 取乃二句  
村 居 取乃二句

じく

あや難やねと  
しよしていさや

いな

柱のよき  
と難をい

じく  
乃を

魚のあり難あり

造

一法乃しり草しり若しり

席

酒乃しり乃をと東分よめりたのしり

馬

一酌一い上二あり折をゆりあり驛馬の

馬

用持あるやしり車はり也とて化者

作者よありていなるなりまをいさるしり

あり也毎よけ難地なりしりあひといはるけし  
思惟かんりしりあり連歌よあ後肉意乃

馬場

生敷しりしりしりしりしりしりしり

驛路

唐りい勅使の道もしりしりしり

驛長おしりしりしりしりしりしりしり  
詩も驛

ひ

一松しりしりしりしりしりしり

乃をありしりしりしりしりしりしり



奇 子とれも不燭然言兼乃たとれは

子 つゝおのふとさゆりと燭魚

燭 とこしらふ燭

う に扱入る百子鳥うひとる

鴨 りときらふあり

う に扱入る百子鳥うひとる

う に扱入る百子鳥うひとる

う に扱入る百子鳥うひとる

魚 神用乃外也鳥獸中

魚 人のあやまらまあり

う あまらまあり

海 た一名お入一うか

海 た一名お入一うか

海 た一名お入一うか

海 た一名お入一うか

海 た一名お入一うか

海 た一名お入一うか

海 た一名お入一うか

海 た一名お入一うか

極田

人田は打線と極新田をよむと田の

極

とふ字をよむといふ乃とよりなりとも

浮

ふとありありありと

親をのらふ

よとこれらうのふとふ白極

極

うつり音

神を枕もさうてい

者

極字

ありあり一極あり

うま

為とありありの折と可極

埋

火をふりありと乃字下の字かと折

う

二句極やしとふ字をよむ

如海

二句極やしとふ字をよむ

夏

もみか二句極やしとふ字をよむ

う

ふとありありの折とふ字をよむ

う

ふとありありの折とふ字をよむ

う

ふとありありの折とふ字をよむ

う

ふとありありの折とふ字をよむ

恨

ふとありありの折とふ字をよむ

う

ふとありありの折とふ字をよむ

うらまふし 約ありうらまふし

打と云字二句 極ありうらまふし

とじ 約ありうらまふし

さうらあり 約ありうらまふし

字このめし 二句 約ありうらまふし

と二句 極ありうらまふし

升

中升 一と 約ありうらまふし

大升 一と 約ありうらまふし

升せ記 一と 約ありうらまふし

官守 一と 約ありうらまふし

猪 一と 約ありうらまふし

顔乃字 一と 約ありうらまふし

式月小ぬん乃字 一と 約ありうらまふし

ふらりふらり 一と 約ありうらまふし

ふらりふらり 一と 約ありうらまふし

ふらりふらり 一と 約ありうらまふし





のけしや所記きり 判 たりぬは  
りてつけたり

類可准之

聖 子田を付る事 不似合に 一合ふにあ  
る 子田を付る事 不似合に 一合ふにあ

聖分 秋なり 凡る 大句野の字 分れ字と  
と 二句 種をりの とも記 八月乃 種

なり 種を付る事 ありし ありし 人のあや 種  
なり 種を付る事 ありし ありし 人のあや 種

あふえのや 物 種を付る事 ありし ありし 人のあや 種  
なり 種を付る事 ありし ありし 人のあや 種

法 伸は乃外 法は令乃 法は有 法は佛 法は法  
て 法は令乃 法は有 法は佛 法は法

法 伸は乃外 法は令乃 法は有 法は佛 法は法  
て 法は令乃 法は有 法は佛 法は法

行 二あり ありし 物 種を付る事 ありし ありし 人のあや 種  
なり 種を付る事 ありし ありし 人のあや 種

行 二あり ありし 物 種を付る事 ありし ありし 人のあや 種  
なり 種を付る事 ありし ありし 人のあや 種

行 二あり ありし 物 種を付る事 ありし ありし 人のあや 種  
なり 種を付る事 ありし ありし 人のあや 種

行 二あり ありし 物 種を付る事 ありし ありし 人のあや 種  
なり 種を付る事 ありし ありし 人のあや 種

行 二あり ありし 物 種を付る事 ありし ありし 人のあや 種  
なり 種を付る事 ありし ありし 人のあや 種

長 二あり ありし 物 種を付る事 ありし ありし 人のあや 種  
なり 種を付る事 ありし ありし 人のあや 種

長 二あり ありし 物 種を付る事 ありし ありし 人のあや 種  
なり 種を付る事 ありし ありし 人のあや 種

長 二あり ありし 物 種を付る事 ありし ありし 人のあや 種  
なり 種を付る事 ありし ありし 人のあや 種

長 二あり ありし 物 種を付る事 ありし ありし 人のあや 種  
なり 種を付る事 ありし ありし 人のあや 種





おのひ 葉あとしひてハ不煙之おひ乃ひと

火ノ用といふなりおふなるおといふなり

思ひ乃煙 おひ乃煙 おふとら 人備

おひ乃 おひ乃 おふとら 人備

おひ乃 おひ乃 おふとら 人備

思 おふ おふとら 人備

おふ おふ おふとら 人備

面 おふ おふとら 人備

おふ おふ おふとら 人備

おふ おふ おふとら 人備

おふ おふ おふとら 人備

おふ おふ おふとら 人備

おふ おふ おふとら 人備

おふ おふ おふとら 人備

おふ おふ おふとら 人備

おふ おふ おふとら 人備

おふ おふ おふとら 人備

おふ おふ おふとら 人備

おふ おふ おふとら 人備

おのひ 葉あとしひてハ不煙之おひ乃ひと

火ノ用といふなりおふなるおといふなり

思ひ乃煙 おひ乃煙 おふとら 人備

おひ乃 おひ乃 おふとら 人備

おひ乃 おひ乃 おふとら 人備

思 おふ おふとら 人備

おふ おふ おふとら 人備

面 おふ おふとら 人備

おふ おふ おふとら 人備

おふ おふ おふとら 人備

おふ おふ おふとら 人備

おふ おふ おふとら 人備

おふ おふ おふとら 人備

おふ おふ おふとら 人備

おふ おふ おふとら 人備

おふ おふ おふとら 人備

おふ おふ おふとら 人備

おふ おふ おふとら 人備

おふ おふ おふとら 人備

く

國乃海

名亦なりといはれぬ海に此海  
名亦の類なり只一とつりいふ  
なり二のちを海といふも名亦より  
名亦より三のちなり伴皆ありといふも  
うにちありいづれにあか

國乃名と

玉乃名三のちをたつ

國の名と

名亦打鐵を垂つけても  
ていふ類一のちをたつといふは  
いなり又二のちをたつといふは  
ていふ類二のちをたつといふは  
名亦天のちをたつといふは  
名亦天のちをたつといふは

あしと人重井乃庭

あしと人重井乃庭  
あしと人重井乃庭  
あしと人重井乃庭  
あしと人重井乃庭

あしと人重井乃庭  
あしと人重井乃庭

あしと人重井乃庭  
あしと人重井乃庭

あしと人重井乃庭  
あしと人重井乃庭

あしと人重井乃庭  
あしと人重井乃庭

卓乃菴

卓乃下いかお出懐より

くす枕

枕のりあつと草を枕と

卓遣

卓遣のりいづれか

卓靴

卓靴のりいづれか

下給卓靴のりいづれか  
枕のりあつと草を枕と

靴乃草履店

靴のりあつと草を枕と

くすこし

くすこしのりいづれか

小藤より記をさるる

くすこしのりいづれか

草

草のりあつと草を枕と

くすこし

くすこしのりいづれか

草

草のりあつと草を枕と

くすこし

くすこしのりいづれか

草のりあつと草を枕と

草のりあつと草を枕と

くすこし

くすこしのりいづれか

くし竹乃少

かと枕とく小いひても  
式小極也此准之

車

た一付乃車一ありてくろく三  
の乃肉り者平し水車ハ自虎のり  
記といり水車ハ不好とんといり  
骨 衣類りあり

く

一く一ちと一とありは二あること  
い？西珍一きりる

然

り一さ

水鶏

夏より車分り水

言

は夕乃字の句燈朝をいん言よ二  
句燈よりゆふらりるわ二句燈より

去雖亦乃言

ハ夕乃字の二句言乃言  
ハ同字よりなりた

老乃くれ年乃くれ

かと去雖のくれ  
ハ同字よりなり

言り車

ハ夕乃字の句燈朝をいん言よ二  
句燈よりゆふらりるわ二句燈より

今記

ハ夕乃字の二句言乃言  
ハ同字よりなりた

車りき

ハ夕乃字の二句言乃言  
ハ同字よりなりた

下今記

ハ夕乃字の二句言乃言  
ハ同字よりなりた

ハ今記

ハ夕乃字の二句言乃言  
ハ同字よりなりた

記

ハ夕乃字の二句言乃言  
ハ同字よりなりた

思ひく寸

ハ夕乃字の二句言乃言  
ハ同字よりなりた

三川乃ハ

ハ夕乃字の二句言乃言  
ハ同字よりなりた





